

G141		温暖化防止政策	
英名科目名	Global Warming Prevention Policy		
大学名	龍谷大学		
連絡先	教育学部 TEL：075-645-7891 FAX：075-643-5021		
担当教員	北川 秀樹		
開講期間	2021年09月24日（金）～2022年01月14日（金） 3講時 13時30分～15時00分（毎週金曜日） 11月5日（金）は、龍谷祭（深草）のため全学終日休講します		
開講形態	後期・秋学期	開講曜日・講時	金曜日 3講時
単位数	2	履修年次	3年次以上
会場	深草学舎		
授業定員			
単位互換生定員	50	京カレッジ生定員	
試験・評価方法	平常点（50%）毎回の小レポートと小テストの内容により評価する。 定期試験（50%）  レポートの提出期限後の提出は原則認めない(正当な理由がある場合は除く)。 小レポート、最終レポートの代筆厳禁、確認できた場合は減点する。		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料	30,000円（単位互換履修生は不要）		
別途負担費用			
その他特記事項	<b>【会場】</b> 龍谷大学深草学舎 第1回目の教室については別途「お知らせ」欄に掲載します。  <b>【授業時間外における予・復習等の指示】</b> 講義前にテキストを読んでおくこと。講義終了後、配布資料とともに復習しておくこと。  <b>【履修上の注意・担当者からの一言】</b> 環境問題は多岐にわたるとともに、日々新たな動きがあるため新聞等の報道に関心を持つこと。積極的に質問してほしい。 毎回授業の小レポートを代筆した者、代筆してもらったものは呼び出して確認し減点する。 授業中の私語、スマートフォン禁止  <b>【参考URL】</b> 全国地球温暖化活動推進センター <a href="http://www.jccca.org/">http://www.jccca.org/</a> 環境省 <a href="http://www.env.go.jp/">http://www.env.go.jp/</a>  <b>【オフィスアワー・教員との連絡方法】</b> 火曜日4講時 3日までにメールで予約すること		
パッケージ科目			
低回数受講推奨科目			
講義概要・到達目標	<b>【講義概要】</b> 近年環境問題は、従来の産業型の公害に加え、廃棄物の増大や自動車の騒音・排気ガスによる都市生活型の公害、地球規模での温暖化の進行や有害化学物質の問題など、益々多様化、複雑化している。とりわけ地球温暖化問題は、二酸化炭素などの大気中の温室効果ガスの増加により起こる。その影響は、国境を超えて広がるとともに将来の世代にまで及ぶ。原因は我々の事業活動や生活に密接に関連した化石燃料の使用が主なものであり、今世紀半ばには二酸化炭素の排出のない脱炭素社会を目指す必要がある。防止のためには通常の事業活動やライフスタイルに関わっているため、意識、技術、制度を総動員して取り組まねばならない。 講義では、まず、地球温暖化のメカニズムと影響、温暖化防止のための国際交渉の現状を紹介する。次に、日本政府の計画、戦略につ		

いて述べる。また、温暖化適応策に触れた後、日本の温室効果ガス排出状況と政府、自治体の地球温暖化対策や企業、地域、家庭等の取組等について、省エネルギー、再生可能エネルギー、革新的技術開発、森林吸収源等を取り上げ、その背景、内容、課題を考える。地方公務員としての実務経験から、グローバル、ナショナル、ローカルにおける地球温暖化のための対策や政策手法について学ぶ科目。

#### 【講義方法】

オンライン講義により進める。資料はmanabaに掲載する。講義では、ほぼ毎回視聴覚教材を用いながら具体的事例を取り挙げて紹介する。またゲストの招聘を予定している。毎回、小レポートを提出してもらう。

#### 【到達目標】

各種の地球温暖化対策とその効果を理解し、説明できる。また、温暖化防止政策は資源節約、循環型社会形成につながることを理解する。

#### 講義スケジュール

第01回～第03回 地球温暖化と京都議定書 温暖化のメカニズム、現状と国際交渉の歴史、気候変動枠組み条約、京都議定書、先進国と途上国、COP21、パリ協定  
 第04回～第05回 国の対策と課題  
 日本の温室効果ガス排出量の推移と過去の対策  
 第06回 パリ協定成長戦略、グリーン成長戦略、2050年の温室効果ガス排出量実質ゼロ 対策の特徴と課題  
 第07回 地球温暖化適応策 農作物、生態系の変化  
 第08回 エネルギー対策、小テスト 国のエネルギー政策、原子力、再生可能エネルギー(太陽光、風力、地熱、海洋、バイオマスなど)、固定価格買い取り制度  
 授業内で小テストを実施。  
 第09回～第10回 エネルギー対策 再生可能エネルギー(太陽光、風力、地熱、海洋、バイオマスなど)、固定価格買い取り制度  
 第11回 特別講義・京都府職員を予定  
 ゲストによる特別講義(京都府または京都市の担当課職員)  
 第12回 革新的技術開発  
 CCS、気候工学(ジオエンジニアリング)、水素  
 第13回 森林の機能と炭素固定 森林管理、地球温暖化防止に貢献する森林・木材、日本の森林・林業の現状と課題  
 第14回～第15回 脱炭素社会への移行 どのような生活、事業活動が望ましいかを考える。地域、家庭、企業で。政策、技術、意識。

教科書	北川秀樹・増田啓子『はじめての環境学(新版)』(法律文化社) 2,900円 このほか、授業中に適宜資料を配布する。資料の再配布は原則として行わないが試験までにmanabaに掲載予定。
-----	--

参考書	松下和夫『環境ガバナンス』(岩波書店) 気候ネットワーク編『よくわかる地球温暖化問題』(昭和堂)
-----	---